

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定) 実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の柔軟な学びに配慮した教育課程により、個別最適な学びを学校全体で推進</p> <p>②誰一人取り残すことなく、多様な教育ニーズに即した支援の充実</p>	<p>①生徒の計画的な学習を、より一層支援できる仕組みを整える。</p> <p>②本校の教育目標をより一層意識したスクリーニング改善に、組織的に取り組む。</p>	<p>①計画的な学習の例（レポート提出状況等）を具体的に設定し、スクリーニングやSHR、修悠館通信等で生徒へ周知する。</p> <p>②教育目標をゴールとした教科目標を設定するとともに、定期的な振り返りの機会を設定する。</p>	<p>①レポート提出状況等を令和7年度と比較し、生徒が計画的かつ継続的に学習できたことが読み取れたか。</p> <p>②「自己肯定感」と「挑戦する力」の育成に向けたスクリーニングを実践できたか。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒が安心して学べる教育環境を維持する。主体的に取り組む意識の醸成をめざした教育活動の充実</p> <p>②生徒が自己を尊重し、自らの力を十分発揮できるよう個別最適化を図り、充実した学校生活の実現</p>	<p>①生徒指導の共通理解を図り、全職員が丸となって取り組めるような仕組みを整える。</p> <p>①生徒がより良い学校生活を送れるように学校行事を充実させる。</p> <p>②本校の重層的な支援体制の充実化を図るとともに、支援を要する生徒に支援が行き届くような仕組みづくりを行い、生徒が学びやすい環境を整える。</p>	<p>①生徒指導研修で生徒指導提要の改定と本校の生徒指導を周知し、更に職員の共通理解の基、実践できるようにする。</p> <p>①悠遊祭の周知を徹底する。更に学校行事を生徒会主催で企画し、より生徒が参加しやすいような学校行事を開催する。</p> <p>②各支援について利用手順やルール等の整理と周知を進め、生徒や保護者が支援にアクセスしやすい環境を整える。</p> <p>②通級、hanatabaカフェ、架け橋教室といった本校の支援策同士を結び付けることで、支援の充実化と段階に応じた適切な学びの機会を提供する。</p> <p>②外部講師に加え、SCやSSW、多文化教育Co等、専門的知識を有し、かつ本校の実情に理解のある方による職員への講話の機会を活用し、職員全体の生徒理解を深めるとともに、生徒支援に対する意識向上を図る。</p>	<p>①生徒指導の共通理解と実践が達成できたことが読み取れたか。</p> <p>①悠遊祭や行事等に参加した生徒が、主体的に取り組めたり、他者と協働したりできたか。</p> <p>②生徒や保護者が各々の課題や支援の仕組みや意義を理解し、本校の支援策を十分に利用できる環境を提供できたか。</p> <p>②既存の支援策同士の連携を強化して支援策の一層の充実化を行い、生徒や保護者へ適切な学習の機会を提供することができたか。</p> <p>②校内研修や会議を通じて、本校職員の生徒理解と支援に対する意識の向上が図れたか。</p>
3 進路指導・支援	<p>①生徒が将来を考え、自分の適性に合った実現可能な進路選択を行い、行動できるようサポート体制の強化</p> <p>②生徒個々の可能性を広げ、社会的自立に向け、生徒が興味関心を持ち積極的に活動できる支援体制の充実</p>	<p>①内定者を増加させるための就職支援とすべく、担当者やアドバイザー、ホステとの連携を密にしていく。</p> <p>①進学マニュアルを見直し、点検等を充実させる。また、通信制だからこそ強みとする分野の開拓を心掛ける。</p> <p>②一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な指導や必要な支援が受けられるようにするため、通級履修者が自己理解や進路実現に主体的に取り組む、本人および保護者の意向と特性に合った進路を実現できるようにしていく。</p>	<p>①繁忙期にも充実した就職支援が行えるようにガイダンスルームA内の役割を負荷なく遂行できる体制を構築する。また、キャリア活動科目を有効に運用する。</p> <p>①担任と連携し進学のマニュアルに基づく点検を充実させる。また、「進路・進学探究」プログラムを継続実施することで、総合型や学校推薦型の選抜方式に対応し、通信制だからこそ強みとする分野の開拓を模索する。</p> <p>②通級の役割や仕組みおよび現況について、本校職員や他校職員、保護者、生徒に十分伝わるよう、通級の見学の機会や職員研修の機会および参加職員の拡充を図る。また、丁寧な三者面談の実施と、個を意識した通級の活動を充実化し、生徒の進路実現に寄与する。</p>	<p>①就職担当者やアドバイザー、ホステとの連携を密にし、繁忙期にも多くの生徒にスムーズな就職支援を行い、内定者を増加させることにつながったか。</p> <p>①進学のマニュアルを見直し、担任と連携しながら、ミスなく点検等を行うことができたか。また、「進路・進学探究」プログラムを活用し、生徒が、通信制だからこそ強みとする分野の開拓ができたか。</p> <p>②通級に関する情報を各方面に十分に周知し、高校通級についての理解を促すことができたか。また、通級を履修している生徒および保護者との面談や特性に応じた通級指導を通じて、生徒の自己理解や進路実現につなげることができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	①地域や近隣の小中学校等と連携し、協働の体制を構築することで、地域に貢献し、地域から信頼される学校づくりの推進	①生徒の活動を地域の方に知ってもらうとともに、地域行事への参加を通して、生徒が地域とのつながりを感じ、自己肯定感を高めるようにする。	①生徒が地域行事に参加する際は、日時や内容を横浜修悠館通信等で生徒・保護者・地域の方に周知する。また、地域だより等で生徒の参加を案内するとともに、要望が来た際に対応できる体制を整える。	①本校生徒の地域行事への参加について、周知を十分に行うことができたか。 地域からの参加要望に対応できる体制を整えることができたか。 生徒が地域とのつながりを感じることはできたか。
5	学校管理 学校運営	①生徒の自己実現に向けた主体的な活動をサポートする環境整備とサポート力の向上 ②教育環境の変化によりよく対応しようとする教職員体制の充実	①オンラインスクリングを通し、生徒に様々な学び方を提示する。 ②想定される災害に対し教職員の再配備と、生徒の防災意識向上を目指す。 ②働き方改革を継続し、教職員の働きやすい環境を構築する。	①オンラインスクリングをほぼ全ての講座で実施し、効果的な運用方法を模索する。 ②地域における本校の役割を再確認し、効果的な防災対策を策定する。最新の防災知識を訓練等を通し生徒に周知する。 ②手続きや諸連絡のオンライン化を促進し、生徒に費やせる時間を創出する。	①生徒のオンラインスクリングの活用状況や満足度を測定する。効果的な運用方法などをまとめたものを作成できたか。 ②実効力のあるマニュアルの策定ができたか。 防災訓練のアンケート調査を行い、防災知識の習得を促進できたか。 ②生徒一人ひとりに寄り添う時間の創出ができたか。